投　稿　規　定

（2014 年 11 月 1 日改訂）

産業衛生学雑誌は，Journal of Occupational Health（JOH）とともに日本産業衛生学会の機関誌で，学会員による研究成果の発表，学会員同士の情報交換を行う和文誌である．学術・実務の両面にわたり，わが国の産業衛生学の発展に寄与するため，基礎的な実験や職域をフィールドとした疫学研究から実務で経験された好事例なども含めた広い範疇の投稿を受け入れ，掲載に向けて検討を行う．

1．投稿は原則として日本産業衛生学会会員に限る．
2．原稿は未発表のものに限る．
3．人を対象とする研究報告はヘルシンキ宣言（1964 年採択，1975 年修正，2002，2004，2008，2013 年改訂）の精神に則ったものでなくてはならない．
4．実験動物を用いた研究報告は各施設の動物実験指針に則って行われたものとする．
5．投稿原稿の種類は次のとおりとする．
　総説：ひとつのテーマに関連する多くの研究論文総括，評価，解説．
　原著：研究結果，研究方法，研究材料，自他の研究成績の解釈等において新知見または創意が含まれているもの，およびこれに準ずるもの．
　短報：原著と同じ性格で速報的に書かれたもの．
　事例：産業衛生学的に興味のある症例や労働諸条件改善事例などの報告．
　調査報告：産業衛生に関する実態調査などの報告でデータ自体が利用価値を有しているもの．
　資料：本学会の委員会，研究会などが集約した意見書，報告書，およびこれに準ずるもの．
　編集者への手紙：掲載論文に対する意見など．
　話題：産業衛生に関する最近の話題，その他会員の自由な意見．
6．投稿原稿の採否は編集委員会で最終的に決定する．
7．本誌に掲載された論文等の著作権は日本産業衛生学会に帰属する．
8．原稿の様式は次のとおりとする．
　⑴原稿は和文とし，オンライン投稿システム（http://www.ipec2.com/sanei/form/form1.php）から PDF で投稿する．User ID：johsubmit，Password：johipec．
　⑵原稿は原則としてワードプロセッサを用い A4 用紙 40 字× 30 行（1,200 字）横書きとする．左余白に行番号を入れる．総説，原著および調査報告には英文抄録（400 語以内）およびその和訳文をつける．抄録は，目的（Objectives），対象と方法（Methods），結果（Results），考察と結論（Conclusions）などの見出しを入れた構造化抄録とする．
　⑶原稿の表紙には表題，40 文字以内のランニングタイトル，著者名，所属機関名，代表著者の通信先（以上和英両文），原稿の種類，表および図の数を書く．
　⑷短報および事例は図表を含め刷り上がり 4 頁以内とする．（表紙を除き図表を含め A4 用紙 750 字詰 10 枚，ただし図表は一点を 0.5 枚とみなす.）
　⑸キーワード（英語で 6 語以内）は，総説，原著，調査報告では英文抄録のあとに，また短報，事例では，表紙の英文タイトルのあとにつける．
　⑹図表中の文字と説明は英文もしくは和文で統一して作成する．原図は縮小製版できるよう鮮明なものとする．図表は一表一図ごとに別の A4 用紙を用い，挿入する箇所を本文の欄外に明確に指定する．
　⑺単位記号は次の例示に従う：km，m，cm，mm，μm，nm，Å；kg，g，mg，μg；l，ml，μl；yr（年），mo（月），wk（週），d（日），h（時），min（分），s（秒），ms，μs．JIS Z 8203 参照．
　⑻文献は引用順に番号をつけて最後に一括し，下記の記載例の形式で記す．本文中にも，「…知られている[1]．または，…[2, 3]，…[1-5]」のように文献番号をつける．著者が 7 名以上の場合は最初の 3 名を記し，あとは「ほか」（英文の引用では et al）とする．
　⑼地方会・研究会の一般口演抄録は本文 400 字以内とする．

［記載例］

＜学術雑誌＞著者名，表題，雑誌名，発行年（西暦）；巻：頁-頁．

1）佐藤章夫，遠藤和志，金子　誉，米原郁美．有機溶剤の生物学的暴露モニタリングに影響を与えている環境および生理的要因．産業医学 1991; 33: 3-16.
2）Omae K, Nakashima H, Takebayashi T, et al. No-effect level of subacute tetraethoxysilane inhalation on the mouse kidney. J Occup Health 1995; 37: 1-4.

＜単行本＞著者名．表題．編者名．書名．発行所所在地：発行所，発行年（西暦）：引用頁-頁．

3）千代谷慶三．けい肺．三浦豊彦，池田正之，小山内博，ほか編．現代労働衛生ハンドブック．川崎：労働科学研究所出版部，1988: 723-6.
4）Rosenberg J. Effects of medications on biological levels of industrial chemicals. In: Fiserova-Bergerova V, Ogata M, eds. Biological monitoring of exposure to industrial chemicals. Cincinnati: ACGIH, 1990: 159-62.

＜オンライン＞

5）International Council on Archives. ISAD(G): General International Standard Archival Description. [Online]. 1994 [cited 1997 Sep 2]; Available from: URL: http://www.archives.ca/ica/isad.html

上記の記載例は Uniform Requirements of Manuscripts Submitted to Biomedical Journals に準じた．雑誌名略記は Index Medicus 参照．

9．掲載料は刷り上がり 6 頁までは学会負担，超過分（1 頁当たり約 10,000 円）は著者負担とする．
10．別刷は 50 部まで無料．超過分は著者負担とする（総説，原著，調査報告は 50 部まで 5,000 円，50 部増すごとに 5,000 円増．短報，事例は 50 部まで 2,500 円，50 部増す毎に 2,500 円増．表紙付は部数にかかわらず 5,000 円増とする）．希望部数は校正の際に明記する．
11．著者校正は 1 回とする．
12．原稿は，なるべく産業衛生学雑誌ホームページからリンクされている投稿システムを利用して送付すること．本文・図・表は，1 つの PDF ファイルにまとめること．PDF ファイルのみ受け付け可能とする．

13. 産業衛生学雑誌は，査読プロセスを迅速化するため，6 つの専門領域からなるフィールドを設定している．投稿の際，当該論文が扱う領域としてふさわしいフィールドを 2 つまで選択し，表紙に記載すること．

フィールド	取り扱う内容例
化学物質ばく露／中毒学	化学物質に関する中毒学：実験研究・疫学研究・ばく露評価・生物学的モニタリング，石綿，じん肺．
物理的要因／人間工学	ワークステーション・作業態様・作業条件と筋骨格系障害・疲労などの健康影響，職場の物理的環境・安全に関する研究，産業疲労，労働生理
メンタルヘルス／心理社会的要因	労働者のメンタルヘルスとその関連要因に関する研究．職場の心理社会的要因とその健康影響に関する研究．
産業保健活動／産業保健職	産業保健職の役割や諸活動，産業保健活動に関連する事項，労働安全衛生マネジメントシステム，中小企業における活動など．
健康増進	労働者の健康問題の予防（メンタルヘルス，化学的要因，物理的要因以外）に関する研究：生活習慣病対策，感染症対策，口腔保健などに関する研究．
疫学	大規模疫学研究，労働者の健康問題のトレンド，国際比較研究，その他労働者を対象として行われる新しいリスクファクターや疫学的方法論を用いた研究．

投稿システムをご利用になれない場合は編集部にご相談下さい．やむを得ず郵送で投稿される場合でも，CD や USB 等のメディアで保存した Microsoft Word 形式の原稿データファイルを，論文受理時にご提出いただく必要があります．

問合先・送付先：joh-edit@ipec-pub.co.jp
〒 170-0002　東京都豊島区巣鴨 1-24-12
(株)アイペック内「産業衛生学雑誌」編集部